

我が校の強み・弱み分析・評価シート

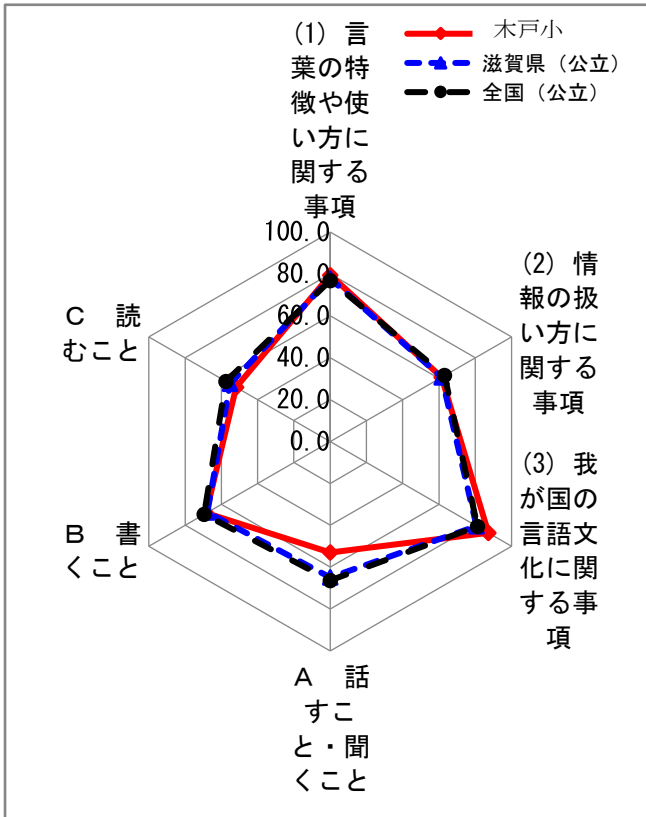
大津市立木戸小学校

1, 学習に関わること【学習指導要領の内容の平均正答率の状況】

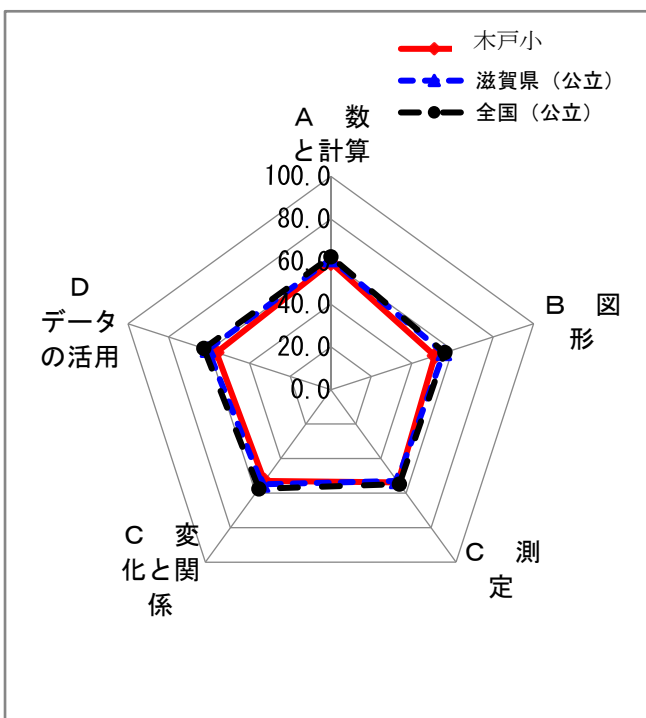
※本校の傾向を見るためのものであり、学校ごとに基準が異なるため、他校と比較できるものではありません。

※グラフは全国平均正答率と本校平均正答率のポイント差に基づいて作成しました。破線はポイント差の中央値を表しています。破線より外側の場合は強み（成果が現れている項目）、内側の場合は弱み（改善を検討する項目）と捉えることができます。

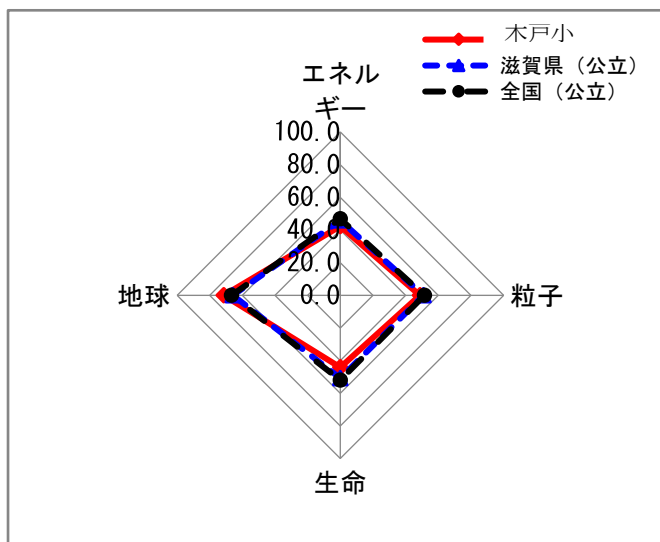
〈本校の強みと弱み〉



【国語科】「言葉の特徴や使い方に 関する 事項」の領域において、全国平均を2.6ポイント上回っており、「我が国の言語文化に 関する 事項」の領域では、全国平均を 6 ポイント上回った。本校では基礎的な学力の定着を目指し、授業や宿題においてドリルを活用したり、意図的に漢字に触れる機会を設定したりしている。また、百文字作文に取り組み、適切な言葉遣いについても指導している。真面目に課題に取り組む児童が多く、1年生からの積み上げとして現れたのだと考えられる。一方、「話すこと・聞くこと」の領域では、全国平均を 13.3 ポイント下回った。本校では、クラス内でテーマを設定して行う「スモールトーク」や、意見交流を活発に行い「対話的な学び」を促進する授業に取り組んでいる。授業時間外でも、意欲的にコミュニケーションを取ったり、自分の思いを伝えたりする姿が見られる中、相手の発言の意図を汲み取ったり、対話によって学びがうまく深まらなかったりする姿も見られる。今後も表面的なコミュニケーションだけで終わるのではなく、相手の発言の意図について深く考えたり、どのように答えるべきか一度立ち止まったりする経験を増やしていきたい。



【算数科】「データの活用」の領域において、6.2ポイント全国平均を下回った。様々なデータの中から必要な情報を汲み取ったり、データを読み取り、論理的な思考をしたりすることに課題があると考えられる。算数の授業だけでなく、総合的な学習の時間等において、どのようなデータや数値があれば課題解決できるのか考えたり、社会において1つのデータでも多角的に捉え、情報を正しく読み取ったりするなど、意図的な場面設定をしながら授業改善に取り組む必要がある。また、教師主導型の授業ではなく、児童が問題に、主体的に取り組み、仲間と協働的に解決する過程を大事にした授業・単元計画を進めていきたい。



【理科】「『地球』を柱とする領域」において、全国平均を4.7ポイント上回った。特に粒の大きさの違いによる水のしみ込み方の違いや、水の状態変化などについて、概念的に理解できている傾向が見られた。本校では4年生以上の理科の学習を専科の教員が行っており、より専門的な知識を活かした授業を展開している。実験や観察を通して知識を定着させたり、考察や振り返りを重視した深い学びを実践したりする効果の現われだと考えられる。今後も、実験を受け身で行うのではなく、児童が主体的に課題を見つけ、実験を行う目的を児童が理解したうえで取り組むなど、児童主体の授業実践を続けていきたい。

2, 生活に関わること【児童質問紙調査】

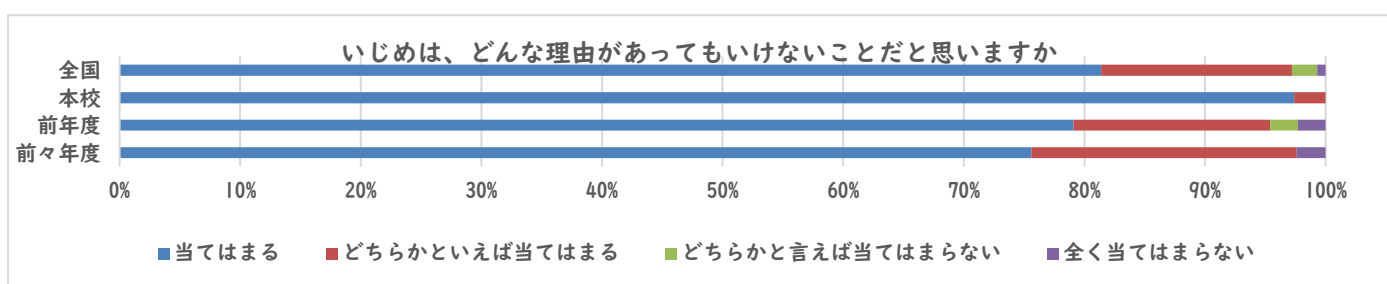
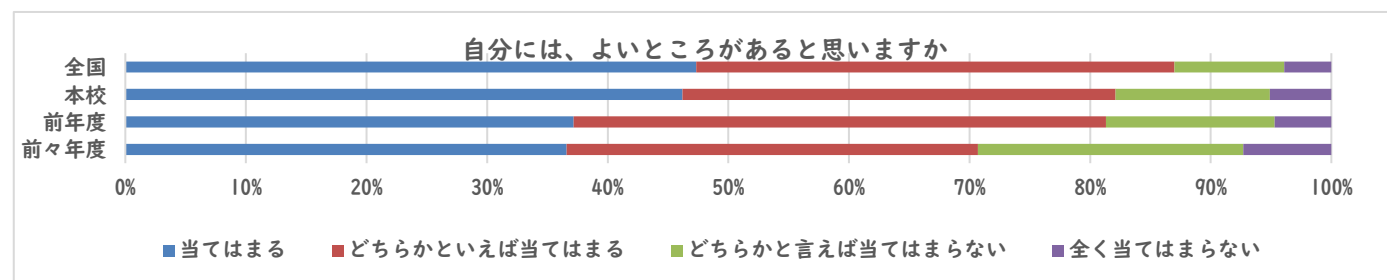
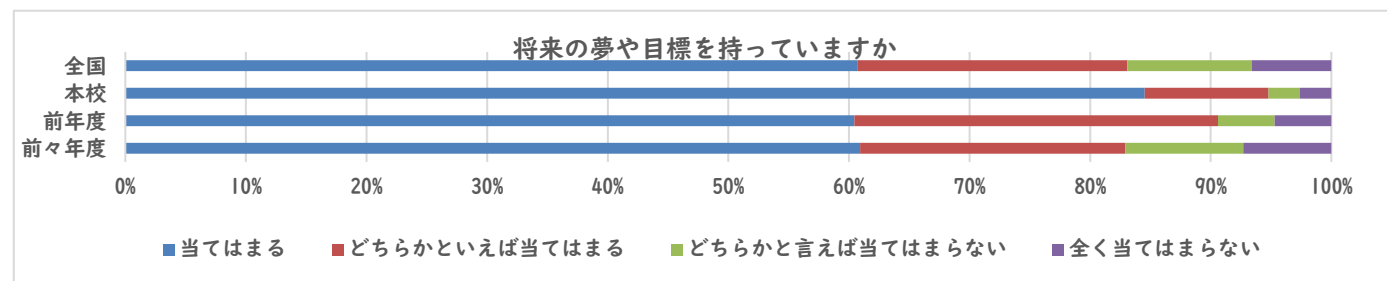
「夢と志をもって生きる木戸っ子」

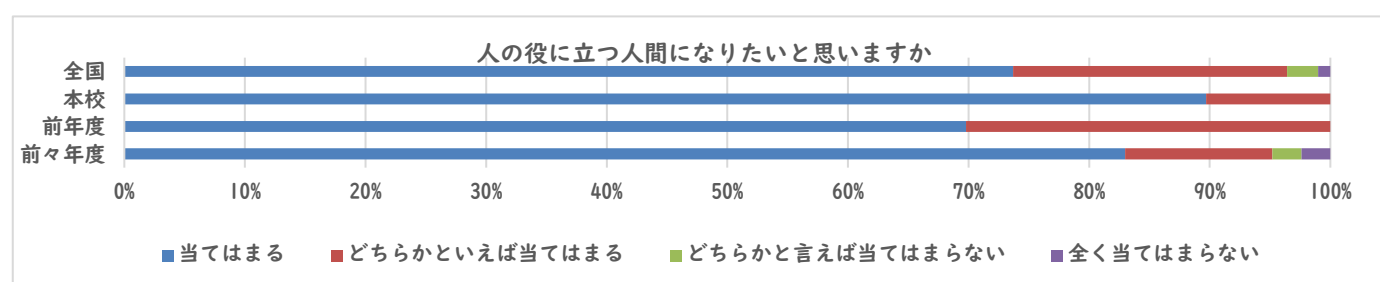
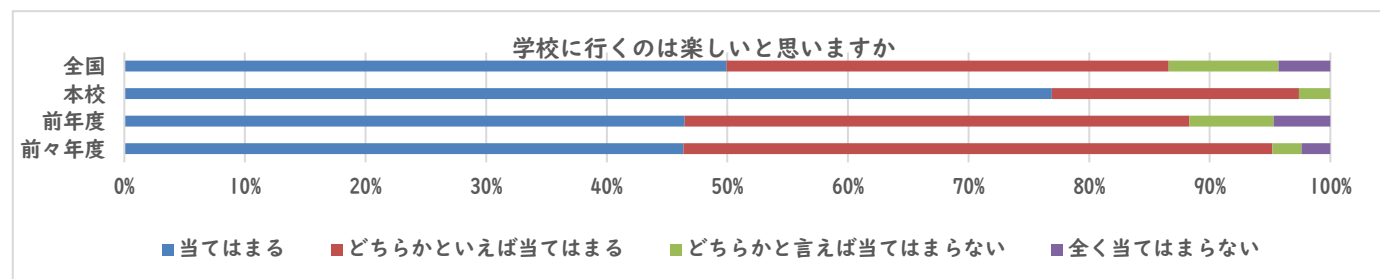
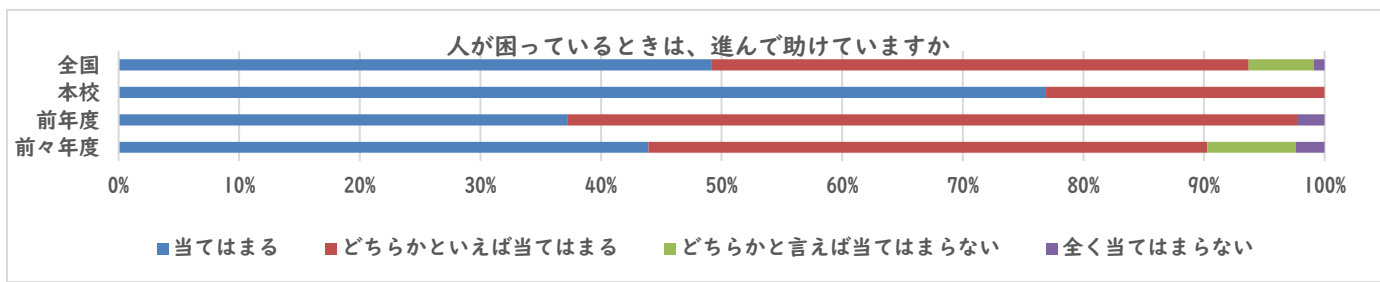
エージェンシー

OECD ラーニングコンパス2030

子どもたちがウェルビーイングを実現していくために自ら主体的に目標を設定し、振り返りながら、責任ある行動がとれる力の育成

*今年度の回答結果とともに、過去2年間のデータと比較し、経年変化を踏まえた分析をしています。

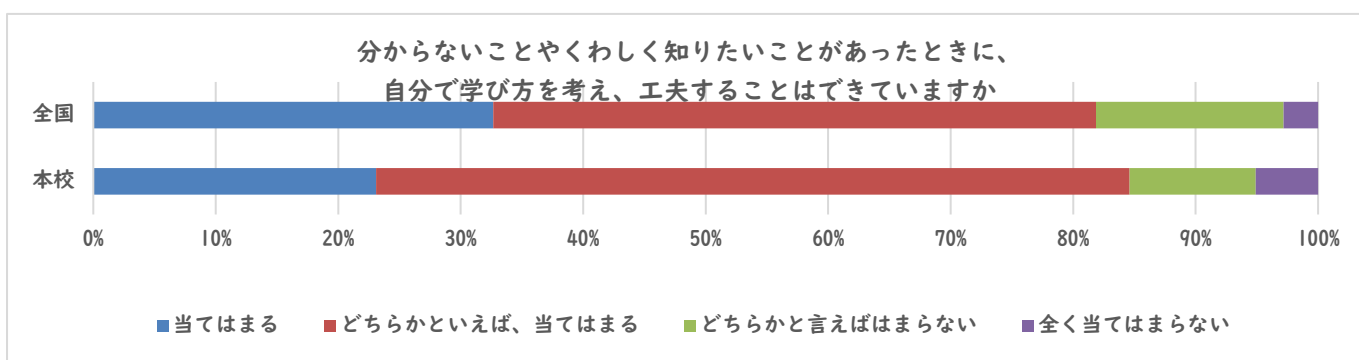




【質問紙調査より①】

上記質問に対して肯定的な回答が多く見られた。また、前年度、前々年度との経年比較をしたところ、肯定的な回答が多く、否定的な回答が少なくなっている傾向が見られた。本校では、普段より「夢と志をもって生きる木戸っ子」の育成を目指し、教育活動を実践している。「一人ひとりが輝く」よう、確かな学びを保障する授業実践や、豊かな心を育む教育等、校外・校内において研修、研鑽しながら子どもたちと向き合うよう努めている。児童の頑張りを認め、励まし、一人ひとりの個性を大切にしながら、学級・学年経営している結果が回答に現われたのだと考えられる。

これからも子どもたちが安心して学校に通えるよう、児童の様子をきめ細やかに見とり、学力面・生活面ともに支援しながら、家庭・地域とつながった学校を目指していきたい。



【質問紙調査より②】

「分からないことやわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」の質問に対して、肯定的な回答としては全国平均より 2.9%上回ったが、「当てはまる」を選んだ児童が 9.5 ポイント下回った。授業中、意欲的に発言したり、話し合いに参加したり、主体的に学ぶ児童の姿が多く見られるが、意欲には差が見られる傾向がある。1人ひとりが授業に参加できるよう、単元計画を工夫したり、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実させたりしながら、学びの保障を目指していきたい。